

「花王株式会社」と「アド・ミュージアム東京」 探訪記

里見 憲俊

お天気は快晴に近く、出かけるにはもってこいの日和だ。時は 2011 年 11 月 22 日。8 時集合場所の京急・JR 横浜駅きた口コンコースに着く。定刻 8 時 20 分に参加者 31 名中の横浜参加の 27 名が全員そろそろ。8 時 41 分発の横須賀線成田行きエアポート急行に乗り錦糸町駅に 9 時 25 分に着く。総武線千葉行きに、乗り換えて目的地の亀戸駅に 9 時 30 分に着く。



ここを集合場所にした四人の中の三人と合流する、予定の一人は急遽欠席。駅前の幅広い明治通りの歩道を右に出発。亀戸天神の菊まつりをあしらった旗が吊るされて風に靡く。蔵前通りとの交差点を渡り、亀戸香取神社前を真っ直ぐに進む。福神橋を渡る時に、左手にスカイツリータワーが朝日に照らされて屹立した姿を見せてくれた。見事な立ち姿だ、一見の価値あり。

余談だが、しょっちゅう見ている「BS プレミアム」に「額縁をくぐって物語の中へ」と言う題名の番組がある。内容は東西の名画へ CG 手法(コンピュータアー・グラフィック)を使って人が入り込み、描かれた絵の人物らと話をするものだ。

その番組の一つに歌川国芳の「東都名所三股の図」がある。隅田川を上る手漕ぎ和船の中から遠方の景色の中に火の見櫓の傍に「スカイツリータワー」に見間違う様な物が立っている。絵に侵入して船頭へあれは何かネ、と尋ねる。謎解きで得た結論は、江戸時代の井戸掘りの為の堀削作業に使う木材を高く組み立てた物だ。それにしても火の見櫓よりも高い。一度、この絵を NHK のホームページの「趣味・教養」欄で番組名をキーに検索して、該当の国芳の作品をご覧になると、スカイツリーに見えること請け合いだ。



橋を渡り切って 10 時に、花王・すみだ事業場(東京工場)に到着した。守衛室の前を歩き、玄関に出迎えた女性係員に誘導されて、全体に清潔感が溢れて透明な印象を受ける建物の中のビデオルームに入った。入り口で一人ずつ温かいコーヒーを振舞われる。担当する小林さんの挨拶後に会社概要を 5 分間に纏めた映像を見た。社名の花王は、1890 年に石鹼部門がスタートした際に「顔」を洗う事から「カオ」を「花王」と転じたと言う。

会社の基本姿勢として、「①よきモノづくりの追及、②信頼と安心をグローバルに、③いっしょに eco の推進、④イノベーションの創造を」の四点を挙げていた。ここすみだ事業場には事業部門と研究開発部門に加えて生産部門の三部門がある。社員総数は 2011 年 3 月で、5,924 人で連結対象会社の従業員の総数は 34,743 人だ。創業は 1887 年(明治 20 年 6 月)で現在の資本金は 854 億円で、2010 年の売上額は 1 兆 8860 億円と言う大企業だ。国内には 9 工場があり東京工場は化粧品の製造ラインを受け持っている。



隣接している白を基調にした検査室では皮膚や頭髮の健康度合をテストする機器があり、小林さんが説明をしながらモニターを募集した。最初のうちは、13人の女性方は尻込みをしたので、実験台を男性が務めた。各自が自由に計測器を利用できる事になると一斉に女性軍が自分の皮膚、頭髮らの検査を試す様になった。我々は、大型エレベーターで二班に分かれて、一階から五階へ上がる。このエレベーターは当初は、材料を上層の製造ラインへ運ぶ為に天井が高く大振りに作ったが、今では人間運搬専用になって居る。



10 時 45 分から 11 時まで製造工程のビデオを廊下で見る。製造ラインは廊下と完全に仕切られており、ガラス戸越しに遠目に見るだけだ。ラインの仕組みの実態は、見えにくく分かり難かった。商品検査は人間が担当し、それも女性だけだ。理由は、男性の集中力は続かないそうだ。このラインでは女性優位なのだ。

そこで思い出したのは、生物学者の池田清彦が書いた「オスは生きているムダなのか」と言う本だった。生物にとっては雌雄の存在が生命と機能の進化に役立ってきた DNA 進化の元だと池田清彦は言う。仄聞によれば、カマキリのオスの事例で子孫を作る作業後はメスに食べられてしまうケースもあると言う。私見だが、人間社会は特に高齢の年金生活の男性が、昨今では粗大ゴミ扱いを受ける恐れがありそうだ。池田の本は真面目な生物進化を説いた内容なので一読をお薦めする。

設置されたビデオで、「生活コミュニケーションセンタ/ECHO SYSTEM」の説明を見る。消費者からの相談窓口で一日に約 600 件、1 年には 12 万～14 万件の相談に対応していると言う。11 時 20 分に一階へ戻る。そこから素通しに見える地階に設けられたコーナーでは、人間が洗剤を使ってきた歴史の概要と花王の社史が、模型やパネル、写真などを展示して紹介しており、各自が自由に見て回れる事ができた。古代都市ポンペイの公共浴場やタマリンドやナツメヤシを洗剤に利用した様子が紹介されていた。日本の事例では光明皇后の施浴の絵巻が紹介され、ムクロジやサイカチが洗剤に利用されたとあった。鎌倉・室

町時代へ下ると貴族など富裕層が「留め風呂」と称して商用風呂を貸切利用したとか、貧しい人達には薪を持ち寄って「合木風呂(アエギ風呂)などを利用したとある。これ等が銭湯の始まりに見えるとあった。大変に良い勉強が出来た。

11時40分に、玄関正面にある船越保武が製作した、「春」と題した女性のブロンズ像の前で参加者全員の記念写真を撮った。11時45分に花王・すみだ事業場を出る。やって来た歩道の反対側を歩き亀戸駅前に12時に着く。駅の入り口横の立て看板を集合場所にして、12時50分までの間に、各自は沢山ある近くのお店を自由に選び昼食を取った。

亀戸駅を13時1分発の総武線で秋葉原へ行き、13時15分発の山手線へ乗り換えて新橋駅に13時22分に着く。東口からの地下道を歩いて今日の二つ目の見学先へ向かう。汐留地区の近代高層ビルが林立する中にあるカレッタ汐留内の「アド・ミュージアム東京」へ13時30分に入った。

広告界の近代化と広告の科学化へ多大の貢献をした電通の四代目社長の故吉田秀雄氏を記念して発足した吉田秀雄記念財団が、2002年12月に彼の生誕100年を記念して、この「アド・ミュージアム東京」を開設した。常設展示と企画展示を併用し、広告に関する2万冊の蔵書を有する図書室もある。開館時間はウィークデイが11時～18時30分の間で、土日祝日は16時30分が閉館だ。入館料は無料。



まずは、展示室横にある映像コーナーの椅子に座る。元電通社員の池田解説員が挨拶と施設の概要、ミュージアム設立の経由を説明して下さいした後、13時40分から「時代の合わせ鏡—広告」と題した15分物のビデオを見せてくれた。広告の変遷が要領よく纏められている。世界で初めての「広告」は約3千年前のテーベで逃げた奴隷を連れ戻して呉れた人へ謝礼を出すと言う「懸賞広告」だった、と言う。

展示品の最初は江戸時代の絵看板だ。文字を使わず商品の図柄を板に彫刻を施したり、形を模した彫り物を軒先に吊るしていた。現在の日本の都会ではあまり見かけないが、西欧の古い街など、例えばオーストリアのザルツブルグの商店街の店先では、これ等の見本が見られる。展示品の絵の中に江戸時代の店先で「青挿し五貫文」の取り引きする場面があると、池田解説員は本論から少し脱線して、三代目金馬の落語「孝行糖」の一節を調子の良い語り口で紹介された。隣の角地には酒屋が新酒を仕込んだとき軒先に吊るした大きな「杉玉」が雨除けの庇を着けて飾られていた。話には聞いたが見たのは初めてだ。初めのうちは緑色だった杉玉が酒の熟成する時間経過とともに、自然の現象として茶色に変化をする、と言う。

経営学者のドラッカーは、近代の広告の淵源を「三井・越後屋」の創業者である三井八郎右衛門(三井高利)が始めた「引き札」にあると著書に記しているそうだ。「引き札」とは現在

の「広告チラシ」だ。今ではその現物が、毎日の様に新聞に挟まれて届けられている。新聞が「広告」を取り扱った最初は、日本初の活版印刷を始めた「横浜毎日新聞」だと説明があり、その見本が壁にガラスケースに入って展示されている。現在の毎日新聞は、大隈重信が始めた「東京日日新聞」の後身で、是とは関係がない。

ここでの余談は、「時事新聞」を発刊したり、「西洋事情」の著書をもったり日本近代化へ多大の貢献をした福沢諭吉のミイラが発掘されたと言う説明だった。科学的な分析はしない儘にご遺族と関係ご子孫の意向で茶毘に付されたと言う。展示室は小ザッパリとして



おり、そんなに大きくは無いが「講談社の野間記念館」や有楽町の「出光美術館」と同じように適度な広さを有し、貴重な展示品が丁寧に配置されている。

この後、池田さんの解説が一段落した所で参加者は、各自で自由に館内を見学した。隣のビルにはパナソニックの小さな工芸美術館もある。この地域に見えた時は、是非ともここを訪問される事をお薦めする。このミュージアムにある多くの展示品は、池田解説員の説明があってこそ生きてくる様に思える。複数の人数でグループを作って見学される時には事前に池田さんに予約を入れた方が良い。(電話：03-6218-2500、ホームページ：<http://www.admi.jp>)

カレッタ汐留ビルの46階に展望室があると聞いて、参加者の大半が直行のエレベーターに乗る。展望室からは、都心のビルと東京湾が織りなす景観を楽しめた。登りのエレベーターでは、ビルの外側に広がる景色が、ガラス戸越しに見る見るうちに足元へと遠のく。途端に肩の辺りが重くなる。逆に降りる時には、地上が目の前に迫り、全身がフッと軽くなる。古川聡宇宙飛行士が国際宇宙ステーションから11月22日に帰還された。宇宙での無重力とは程遠いが、私が重力の存在を体感した一瞬だ。エレベーターは電気力で駆動する。研究者の間では、宇宙に関して目下「ダークエネルギー」が大きな難題となって居る。宇宙の構成は、物質が約4%、ダークマターが23%、ダークエネルギーが73%を占めると言う。この「ダークエネルギー」と「重力」の双方をコントロールする技術が出来れば、ダークエネルギーの「斥力」を利用してエネルギー問題などのある部分が解決するのでは・・・と、これまで思いもしなかった「夢物語」が、降下するエレベーターの中で頭をよぎった。

15時30分にカレッタ汐留ビルの出口付近で解散する。その後、有志11名(内3名が女性)が新橋駅ビル1号館にあった「一番どり」で反省会を開き今回の見学会を終了した。

(注)1、歌川国芳「東都名所三侯の図」は、yahoo 検索で左記のタイトルをキーに探すと「歌川国芳の画像」として沢山の作品が出てくる、その中に該当する絵があります。こちらの方が絵は大きくて鮮明です。

2、最新宇宙論入門書として、村山斉著「宇宙は本当にひとつなのか」がお勧めです

(注) 花王の建物内は撮影禁止 [写真提供] 佐々木和彦氏